

研究開発テーマ：

北海道における産業活性化および雇用創出に繋がる社会人の学び直しのための基盤の構築と実証

- 北海道大学デジタルリスキングプログラム (DREP) の開発と運用 -

北海道大学 データ駆動型融合研究創発拠点(D-RED)ではSIP第3期にて採択された頭記研究開発テーマの遂行を通して社会人向けデジタル人材育成プログラム「北海道大学デジタルリスキングプログラム(DREP)」を開発・運用いたします

本研究開発テーマの目指す社会

- ▶ 地域デジタル中核人材の育成により、産業活性化・雇用創出から地域創生につながる社会

本研究開発テーマの役割

- ▶ デジタル人材を育成する新たな学びの場の構築

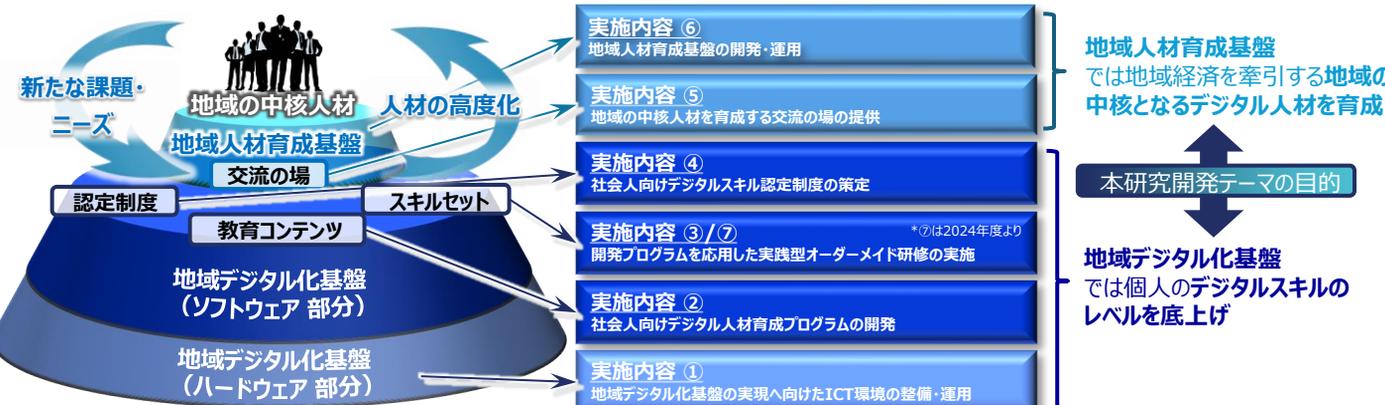


本研究開発テーマの目的

- ▶ 地域における 人材全体のデジタルスキルレベルの底上げと デジタル中核人材の育成

本研究開発テーマの実施内容

- ▶ ・地域の社会人を対象とした学び直しの場を構築し、効果検証を行う「**地域デジタル化基盤**」
- ▶ ・産官学の異なるミッションを持つ人材が交流し、学び合い、社会課題解決に向けて協働する場である「**地域人材育成基盤**」の2つの基盤を構築・運用
- ▶ 参画組織により設立したコンソーシアムへ構築基盤を引き継ぐことで、持続的運用を可能とし、成果の確実な社会実装を実現



本研究開発テーマの実施体制



本研究開発テーマのスケジュール

- ▶ PDCAサイクルを回しながら進め、参画組織により設立したコンソーシアムへ構築基盤を引き継ぐことで2028年度以降の持続的運用を目指す

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
調査			受講団体候補 (業務・職種・デジタルリテラシー) / 研修内容・受講方法要望等		
コンテンツ開発				コンテンツの最新化管理	
研修	Phase1	* Phase2	Phase3	Phase4	Phase5
研修実施方法確立	オンデマンド受講システム・配信環境整備 オフライン研修環境整備 / スキル認定制度構築				
セミナー・シンポジウム	セミナー シンポジウム *	* * * *	* * * *	* * * *	* * * *

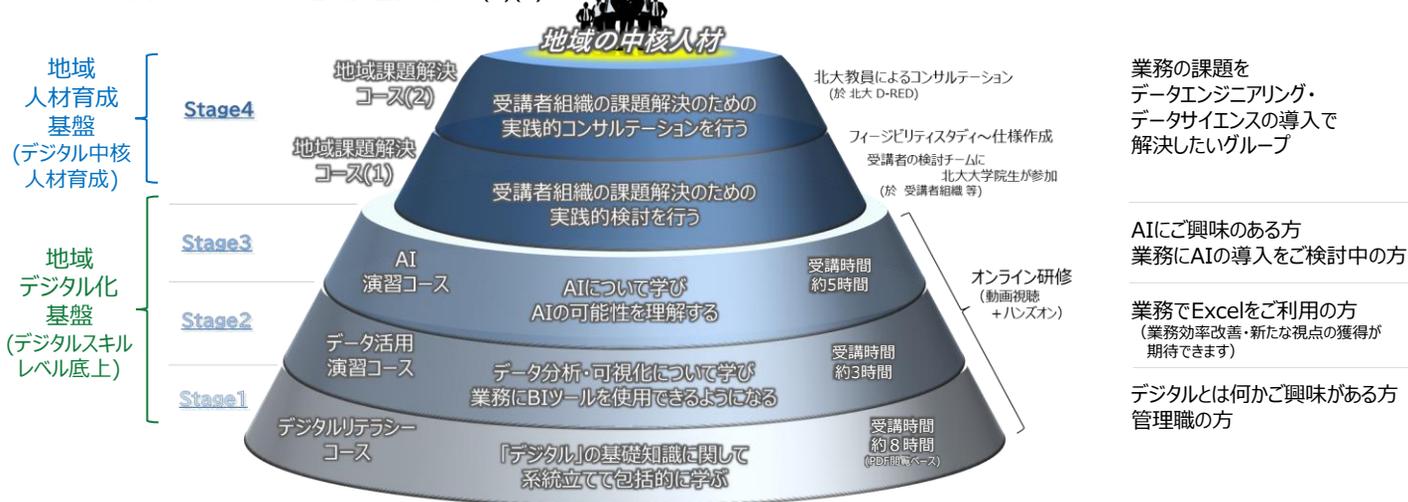
*2024/10/1より Phase2研修開始

DREPのゴール

- ▶ 少子高齢化社会がもたらす労働力減少が間近に迫っており、デジタル技術の導入・活用による業務の効率化・新しいモデルの導入は待ったなしの状況となりつつありますが、デジタル技術の導入・活用により職場を変えていくためには、従業員の「デジタルに関する理解」が欠かせません。
- ▶ また、これから職場の戦力となるZ世代（デジタルネイティブ）がその「デジタル力」を存分に発揮する為にも、管理職や先輩従業員による「デジタルに関する理解」と協力が欠かせません。
- ▶ DREPは職場における「デジタルに関する理解」の醸成、即ち「デジタルスキルの底上げ」の実現を目指して開発されたオンライン研修プログラムです。加えて、オンライン研修を修了した希望者に自組織の課題解決演習を提供し、「デジタル中核人材の発掘・育成」も目指します。

DREPの研修メニュー

- ▶ 4ステージ・5コースで構成 - 受講者の異なる需要に対応
 - ・オンデマンド研修 : デジタルリテラシーコース / データ活用演習コース / AI演習コース ← すきま時間に効率的な受講が可能です
 - ・オフライン研修 : 地域課題解決コース(1)(2)



Stage1~3は「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」のカリキュラムに基づいて作成されており、デジタルに関して包括的に理解し、Z世代が高校・大学で学習する「情報」と同等の内容を学習することができます。またオンライン・オンデマンドで単元毎に受講できますので、すきま時間に効率的に学習することが可能です。(<https://drep.jp> からお申込み・受講が可能です)



<https://drep.jp>

<Stage1: デジタルリテラシーコース>

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム

のカリキュラムに準拠した内容です

- ① デジタルリテラシー : 社会におけるデータ・AI活用について学ぶ
- ② データ活用基礎 : データの収集・分析・解析・可視化について学ぶ
- ③ AI基礎 : AIの基礎について学ぶ

< テキストの例 >



<Stage2: データ活用演習コース>

オープンデータとBIツールを使用してデータ分析・可視化について学びます。下記の演習課題から選択して受講

- ① 札幌市感染症レポート
- ② 札幌市人口動態レポート
- ③ 道路橋孫陽レポート

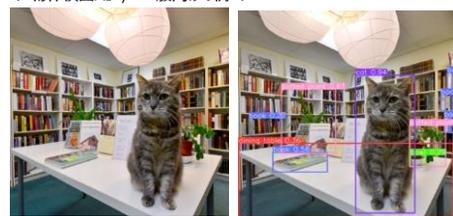
< 札幌市人口動態レポートの例 >



<Stage3: AI演習コース>

AIについて学び、AIの可能性を理解頂きます
Google Colaboratoryにアクセスし下記のAIを学びます
画像分類AI / 物体検出AI / セグメンテーションAI
姿勢推定AI / 属性認識AI / 生成AI

< 物体検出AI / 一般向けの例 >



Stage4は、Stage1~3を修了した「自組織の課題解決に取り組む受講者グループ」をサポートする演習です。課題の難易度に合わせて2つのコースをご用意しています。

「地域課題解決コース(1)」

既存技術・既存サービスの組み合わせにより解決可能な課題を対象とします。(北大大大学院生がサポート)

「地域課題解決コース(2)」

課題解決のために新技術開発が必要な課題を対象とします。(北大教員がサポート)

< 地域課題解決コース(2)は北大D-REDにて開催 >



研究開発責任者

国立大学法人 北海道大学

副学長 (IR / D-RED / 数理データサイエンス)

総合イノベーション創発機構 データ駆動型融合研究創発拠点 (D-RED) 拠点長 長谷山美紀



お問い合わせ先

国立大学法人 北海道大学

総合イノベーション創発機構 データ駆動型融合研究創発拠点 (D-RED) SIP事業推進室

〒060-0813 札幌市北区北13条西10丁目

E-mail : d-red_sip@research.hokudai.ac.jp

< DREP修了証 >

修了したコースに応じて修了証を発行いたします

